

## 第5章 良好な景観計画に関する基本方針等

### 1 景観計画の背景と目的

近年全国的に景観に対する関心が高まる中、愛媛県では平成16年6月に景観法が制定されたことを機に、県全体で景観まちづくりを積極的に進めています。本町も平成23年5月に景観行政団体となったことを受け、景観まちづくりに向け景観計画を策定することとなりました。

本町は、四方を高月山、御所在山、戸祇御前山、高研山、地蔵山などが連なる四国山地に囲まれた盆地のなかに、日本最後の清流と呼ばれる、四万十川の支流のひとつとして町民に親しまれている広見川がまちの中央を貫流しています。さらに、町域の約85%を森林が占めており、豊かな自然環境に恵まれたまちです。

このような本町は、これまで景観を大きく損なうような場面に遭遇したことはなかったが、近年本町を取り巻く社会資本の整備や生活様式の変化に伴い、町民の誇りでもある広見川流域の自然も徐々に変わりつつあるなか、地域の特徴的な景観の損なわれることが危惧されるようになりました。

さらに本町では、町の歴史的な形成過程の中で、生活に密着したまち並みや古くから受け継がれた農地が息づいています。

鬼北町ではこのような背景のなかで、次世代に向けて先人から受け継がれてきた貴重な財産を継承し、現状の良好な景観を維持しつつ、さらに特徴的な景観については積極的に保全することを目指した「鬼北町水と緑の景観まちづくり」を目的として本計画を策定し、本町の良好な景観の保全に努めていくこととします。

### 2 景観の理念・基本目標及び基本方針

#### 1) 景観計画における理念

本町は、第二次鬼北町長期総合計画・基本構想の中で、鬼ヶ城山系や成川溪谷など豊かで美しい自然との調和を図りながら、ここに住む人も訪れる人も心が安らぎ、活力に満ちた豊かな暮らしを実現できる町を目指すこととしています。

景観計画においては、このような本町の将来像をうけて美しい自然環境と先人から受け継がれてきた伝統・文化を基調として、将来にわたって良好な景観を保全・維持するうえで、自然豊かで、歴史文化に恵まれた本町の特性を活かし、それらが調和することを目指した鬼北町全域の景観計画における理念を以下のとおりとします。

## 森と清流、そして田園が織りなす、自然、生活、文化が融合した景観づくり

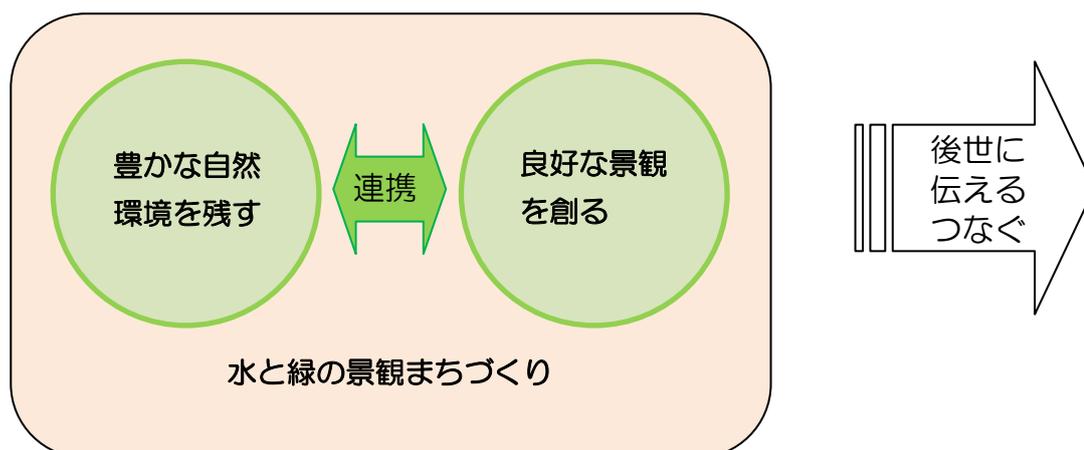
### 2) 目標

本町の景観計画における基本目標としては、「良好な景観を残す、創る、伝える・つなぐ」ことをスローガンに、以下の目標を設定し取り組むこととします。

目標1：「豊かな自然環境を残す」：地域の骨格をなす豊かな自然環境の保全

目標2：「良好な景観を創る」：現状の景観を活かすとともに、良好な景観創出と育成

目標3：「水と緑の景観まちづくり」：豊富な水と緑を活かしたまちづくり



### 3) 基本方針

鬼北町における基本方針は、これまでの本町の特性や課題を考慮したうえで、景観の理念及び基本目標を受けて以下のように設定します。

#### (1) 豊かな森林等の自然景観づくり

本町の外周部は、多くの山々に囲まれ緑豊かな自然環境に恵まれています。さらに低地部は、広見川をはじめ中小の河川が町域を流下しており、広見川の河川沿いには平坦地としての水田が広がり、その他の中小河川沿いは、地形を活かした棚田や段畑が存在し、本町の特徴的な景観を形成しています。

これらは本町を特徴づける貴重な景観要素として将来にわたって維持・保全に努めます。

## (2) 四万十川支流の清流環境としての河川景観づくり

本町の低地部には四万十川の支流としての多くの河川が流下しているが、中でも中央部を流下する広見川は本町の代表的な水辺空間としての景観要素となっています。町内では四万十川の支流としての清流環境を保持し、美しい自然を子どもたちに伝えようとする取り組みが行われています。今後においてもこのような取り組みを普及拡大し、清流としての水質を保持するとともに、将来的に誇りを持てるよう景観的にも現状維持に努めます。

## (3) 先人からの歴史・文化を継承する景観づくり

本町では、町並み景観として歴史的な建造物としての鬼北町役場を中心とする近永地区や、日吉明星ヶ丘施設群と一体となった日吉地区のまち並みが存在しています。さらに、縄文期の岩谷遺跡をはじめとする、等妙寺旧境内や善光寺など多くの史跡や文化財が存在し、文化的資源・文化的景観として受け継がれています。これらについては、先人の残した貴重な資源として将来にわたり保護、活用しながら、歴史・文化景観の継承に努めます。